

学位プログラム「学士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

教育目標

大阪大学及び人間科学部の教育目標を受けて、学位プログラム「人間科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「人間科学」では、1972年の人間科学部発足以来、従来の文系・理系という枠にとらわれず、つねに新たな学際的領域に視野を広げながら、人間という存在そのもの、及び社会の現実を、行動学・社会学・教育学・共生学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。これを学部規程として「人間と人間の営む社会を科学的に考察し、人間とは何かをみつめ、人間という存在を理解し、人間らしく生きていける社会を作り出すことに貢献できる有能な人材を育成すること」としてきました。

その目的の実現のため、

- 学際性：現代的課題を解決するために、従来の専門分野の壁を取り払い、複数の学問領域の方法及び知識を集合させて教育・研究に取り組むこと。
- 実践性：実験・調査・フィールドワークという、創設以来重視してきた人間科学的〈知〉の技法を洗練化するとともに、〈知〉をアカデミズムのなかに閉じさせることなく、現場と結びついた問題解決型の教育・研究に取り組むこと。
- 国際性：社会及び大学のグローバル化の趨勢に配慮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをみたく〈知〉の創出を目指すこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた、地域に貢献するとともに、国際的にも活躍する人材の育成を目指しています。

学位プログラム「学士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学及び人間科学部のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」では、人間と社会の現実を、行動学・社会学・教育学・共生学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その実現のため学際性・実践性・国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を身につけ、さらに所定の期間在学し、所定の単位を修得し、卒業論文の審査に合格した学生に学士の学位を授与します。

- 人間と社会の諸側面について学際的で幅広い知識や思考力を身につけている。
- 行動学、社会学、教育学、共生学の基本的な知識を体系的に理解している。
- 現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応えようとする意欲を持っている。
- 問題となる課題を実験・調査・フィールドワークなどによって解決する実践的知識、技能、関心や意欲を持っている。
- 問題となる課題についての専門的知識、及びそれを科学的・実証的・統計的手法、並びに人文的・文献調査的手法を用いて分析・考察できる研究スキルを修得している。
- 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力や技術、コミュニケーション能力を持っている。
- グローバルにコミュニケーションする能力を持ち、旺盛なチャレンジ精神を持っている。

これらの能力は、博識であることや科学的に物事を判断できるということにとどまらず、激動する社会の中で柔軟に対応可能となるよう、自己の日々の成長や研鑽の素地として有効に機能するものと考えています。

学位プログラム「学士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学及び人間科学部のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」は、人間についての理解を深め、現代の多様な問題を、総合的・学際的な視点で分析し、科学的な新しい人間観を社会に示し、人間の現実生活をより充実させることをめざしています。このため本学部では、科学的・実証的・統計学的なアプローチ、並びに人文学的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化したカリキュラムを整備し、人間と社会の諸側面について総合的に学ぶことを可能にする教育環境を提供しています。

全学共通教育科目では、すべての学問領域を横断的に俯瞰できるような教養科目、情報処理科目、健康・スポーツ教育科目を履修するほか、特に外国語教育科目の履修の比重を大きくして、学部段階の専門教育科目修得の基礎能力を培うようにしています。特に、論理的思考と科学的分析力の修得のため、数学（4単位）、統計学（4単位）が必修になっています。専門教育科目では、「人間科学概論」をはじめとして人間を科学的に考察するために必要な基礎専門知識と、学際的なパースペクティブを養う必修・選択必修科目群を低学年次に配置することで、学生の知的関心を喚起し、研究分野選択の道しるべとしています。高学年次においては学生各自が選択した「行動学科目」「社会学科目」「教育学科目」「共生学科目」の専門領域を深めつつ、他の学科目さらには他学部科目等の履修を可能にし、多様な研究の視点を学際的に学べるよう、自由選択科目の幅を広く設定しています。本学部のカリキュラムの最大の特徴は、2年生後半から3年生に毎週3コマ枠を使う「実験実習」（計6単位）であり、少人数教育の中でより具体的な研究方法を学び、研究テーマを深く追究できるようにしていることです。以上のような科目を修得し、卒業演習（2単位）、卒業研究（8単位）で、計124単位以上を取得すると卒業が認められます。

また平成23年度から一般入試とは別に、すべての授業が英語によっておこなわれる「人間科学コース」が新たに加わり、人間科学部の全学生が英語による多彩な授業に参加できるようになりました。海外のさまざまな国からの留学生とともに、日本文化やグローバルな問題について学ぶことができます。

＜カリキュラムマップ別紙＞

学位プログラム「学士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

大阪大学及び人間科学部のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

学位プログラム「人間科学」は1972年の人間科学部発足以来「人間と人間の営む社会を科学的に考察し、人間とは何かをみつめ、人間という存在を理解し、人間らしく生きていける社会を作り出すことに貢献できる有能な人材を育成することを目的」としていません（人間科学部規程第1条の2項）。それに向かっての学びでは、人間と社会の全体像をさまざまな側面から総合的に理解することが大切なため、自然科学的・社会科学的・人文科学的手法をはじめとする、さまざまな手法を縦横に用いて個々の側面に接近します。したがって文科系・理科系のどちらか一方に偏るのではなく、高等学校等でのあらゆる普通教育科目と専門教育科目の学修が、入学後の学びに意義あるものとなります。

【入学者選抜の方針】

人間科学部が理念として掲げる文理融合、その具体的側面としての学際性・実践性・国際性を、それぞれの学生の関心にしたがって身につけることができるような教育プログラムを充実させてきた私たちは、特定の学問領域の枠にとらわれない好奇心旺盛な態度、さまざまなフィールドで実践的活動に参加する行動力、さらにグローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲や能力を備えた学生を強く求めています。したがって入学者選抜にあたっては、文理融合的な学びや研究を可能にするバランスのとれた5教科の学力、複雑な議論で構成された長文を読みこなす読解力や分析力、国際コミュニケーションの土台となる外国語能力、並びに主体的に学び、自ら課題を発見し探求しようとする意欲を重視します。

- 大学入試センター試験では、国語、数学、社会（地歴、公民）、理科、外国語の5教科の受験が必要です。

個別学力検査（前期日程試験）の社会（地歴、公民）と理科については、

○Aパターン≪社会（地歴、公民）から2科目、理科から1科目（基礎を付していない科目）または2科目（基礎を付した科目）≫

もしくは

○Bパターン≪社会（地歴、公民）から1科目、理科から2科目（基礎を付していない科目）もしくは3科目（基礎を付した科目から2科目と基礎を付していない科目から1科目）≫

のいずれかのパターンを選択し、受験することが可能です。詳しくは「学生募集要項」を参照して下さい。

- 個別学力検査（前期日程試験）では、国語、数学、外国語を課し、大学入試センター試験との配点は均等です。
- 世界適塾入試（AO入試）では、志望理由及び高等学校在学期間に相当する期間に行った特筆すべき活動内容の評価を第1次選考（書類選考）で行い、第1次選考合格者に対して、小論文と面接を課し、大学入試センター試験の得点と合わせて、学力・課題探求力・意欲などを多面的総合的に評価します。提出書類・小論文・面接の合計点と大学入試センター試験との配点は均等です。

人間科学英語コースの入試では、高い外国語能力とともに、面接により意欲や関心进行评估します。

また3年次編入では、大学・短大・高専での多様な学問領域を一定程度学修し、それらの成果を発揮しつつ、本学部の求める人間への洞察を可能にするような学生を募集しています。